

極秘

序

最近外務省に対する各方面よりの批判が熾烈であるが、そのうちには国内政治上の目的のためにする外務大臣に対するものと外務省事務局に対するものとの双方がある。前者に対してはいかんともし難いが、後者については、そのことごとくが正確なる批判とは言えず、上滑りのな、部分的なものもあるとしても、事務局としては一応謙虚に自省の資となすべき心構を要するとともに、反面誤解や悪意に基く批難にたいしてはこれを是正し啓発する措置を要するや否やの問題がおこつて来る。およそ、米英をはじめとし世界各国において、外務省は概ね評判の悪い省になつてゐるので、結局日本の外務省に対する批判が、かかる世界各国における外務省に対する批判以上に激化しているか否かが問題である。

しかして、もしもかかる平均的な不評以上の不評判を蒙つてゐるとすれば、これに対しなんらかの是正措置を講じない時は外務省の国内におけるプレス・イメージを不当に下げることになり、その結果は外務省の国内政治面における発言力を軽からし